

平成 26 年 1 月 23 日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

## 学位論文審査結果報告書

申請者氏名：鶴田 大作

論文題目：肩腱板断裂患者における臨床像、MRI 所見、病理組織像および術後成績の  
関係 - 生検筋組織所見に着目して-

審査委員：主審査委員

山川 光徳



副審査委員

細矢 貴亮



副審査委員

内藤 輝



審査終了日：平成 26 年 1 月 23 日

### 【予備審査結果の要旨】

肩腱板断裂患者の術前 MRI 画像で棘上筋や棘下筋に脂肪変性がみられた場合、それらの柔軟性や腱板の可動性が低下しやすく、脂肪変性の有無は手術時の一次修復の可否、術式の選択や術後成績に影響するとされている。解剖用検体で腱板筋における脂肪変性を病理組織学的に検討すると、腱板断裂例では腱板筋の筋線維自体に脂肪変性があるとされている。一方、腱板切離を行った動物の腱板筋では、CT 画像で腱板筋に脂肪変性をみるものの、病理組織では筋線維自体の脂肪変性はなく、筋線維間への脂肪細胞の浸潤があるとも報告されている。しかし、有症状の腱板断裂患者における病理組織像を評価した報告は未だにない。著者は、腱板断裂患者の腱板筋における病理組織像と臨床像、MRI 所見および術後成績の関連性を初めて評価した。

腱板断裂患者の MRI 画像所見（断裂の大きさ、脂肪変性の有無）、術前に施行した腱板筋の針生検組織像と術後成績（再断裂、JOA スコア、肩の筋力）を評価した。

その結果、①肩腱板断裂の程度と MRI 画像および病理組織での脂肪浸潤の程度との関連、②棘上筋における MRI 画像での脂肪変性と病理組織での脂肪浸潤との関連、③術後成績の指標としての術前 MRI 画像と病理組織像の評価の有用性が、初めて明らかにされた。

以上、本研究には重要な新知見が含まれており、こられの結論を導き出す過程についても熟慮され、結果に対する十分な考察もなされていた。本研究で得られた成果は、肩腱板断裂患者における術後成績の評価に有用な情報を与えるものと思われた。本審査委員会では、全員一致して、「博士（医学）論文に値する」と判断した。

(1,200 字以内)